業界潮流リポート㊻

# 需要開拓に挑む企業の事例集

印刷産業の市場規模がシュリンクする中、印刷会社は生き残りの道を模索し、新たな顧客との接点を増やす施策を講じている。印刷通販やメールマガジンなどで自社の事業内容を発信しているほか、アジア初導入のデジタル加飾機による製品を展示会でPRするといった各社の取り組みを追った。（大野）

## シー・アール・エム

## 「アクリル」「缶バッジ」などニッチな品目の印刷通販で躍進
## ネットビジネスの知見生かし次の手も

㈱シー・アール・エム（名古屋市中村区名駅、☎052・446・5544）は、印刷通販サイト「メニューブックの達人」「大判プリントの達人」などを運営している。オフセットの商業印刷から新天地を求めて同事業に進出した同社は、ニッチだが確かなニーズがある分野に重点を置き規模を拡大。ネットビジネスを通じて、プロモーションやマーケティングの知見も蓄え、さらなる事業展開を図っている。同社の取り組みについて、松村祐輔社長にインタビューした。

松村祐輔社長

**――責社概要について**

「もともと祖父が1948年に創業した㈲松村印刷所が原点で、私は3代目の後継者として2002年4月に入社。官公庁向けの印刷物を製造していたが、売り上げを大きく伸ばすというのも厳しいマーケットだった。新しい取り組みを行わなければと、同年8月に㈱シー・アール・エムを立ち上げ、後継者と創業者の二足のわらじでスタート。シー・アール・エムはデジタル印刷機を設備し、地元名古屋のアミューズメント施設向けのポスターやPOPなどを多品種小ロット対応で手がけ、幸いにも1年目から利益を上げられていた」

「その後、松村印刷所のオペレーターが定年退職したタイミングで、オフセット印刷機を出してしまおうと、当時代表を務めていた父に相談した。新しくオペレーターを雇うのも、スキルレスな新機種へのリプレースも難しく、なによりオフセット印刷業界は供給過剰だと感じていたため、協力会社へ外注するスタンスを取り、05年1月にはM&Aを行い、シー・アール・エムが松村印刷所を取り込む形となった」

**――印刷通販に取り組み始めた経緯を**

「08年にリーマン・ショックが起こり、お客さまが次々といなくなってしまう状況だった。そこで、新たな顧客獲得のため、遅ればせながら10年に印刷通販事業へ参入。以前から手がけていたメニューブックの知見を生かし『メニューブックの達人』を開設した。『経営計画手帳の達人』『大判プリントの達人』と展開していき、近年はBtoCも視野に入れた『アクリルグッズの達人』『缶バッジの達人』が伸びている。アニメやアーティストのライブグッズなどマーケット自体が伸長しており、ニーズが増加傾向にある」

「一見するとメニューブックや大判プリントなど、品目が散らばっている印象かもしれないが、根底にあるシステムは共通。データを処理してプリントするビジネスモデルを軸に、アプリケーションや加工が異なるというだけだ。新たなサービスの立案と、それを実現するシステム、マーケティング、生産などをワンストップで行えることが当社の強みと言える」

**――今後狙う分野は**

「ニッチな世界で勝負することを決めており、大手の印刷通販が手がけているようなレッドオーシャンの品目には手を出さない。ロールアップのPOPにしても、当社は印刷物に加えスタンドまで含めて提案するような差別化を図っている。狭い分野でも確かに困りごとを抱えているお客さまがいて、ネットでは拾い切れない仕事に対して『営業と相談したい』と問い合わせをいただいていた。13年に東京オフィスを開設し、こうした声をフォローできるようになり、一層仕事は増加している」

アクリルグッズの印刷通販などを展開　缶バッジをはじめBtoC分野が好調

「粘着製品も大きなマーケットと捉え、再剥離タイプのポスター、ウォールステッカーを扱っている。小ロットのシールやオリジナルデザインのステッカーを望むニーズも感じており、シール・ラベル向けのデジタル印刷機でコンベンショナル機とそん色ない品質のものが刷れるのではと関心を寄せている」

**――今後の展望について**

「新たな『達人シリーズ』のほか、キャッシュポイントが複数ある、ライセンスビジネスにも注目している。メーカーとベンダーをマッチングしたり、グッズは当社が製作したりといった展開が考えられる」

「また、プリントビジネスで培ったデザイン、プロモーション、マーケティングを生かした、美容や健康関連の通販ビジネスも構想中。もちろんパッケージも自社で作れるので、ニーズとプロダクトを探って、チャレンジしてみたい」

## 第一印刷所

## 情報サイト「#こちら台東企画研究所」で営業チャンスを
## 顧客とのコミュニケーション手段に

㈱第一印刷所（新潟市中央区和合町、堀一社長、☎025・382・7400）は、多様な営業品目を扱っている印刷会社。東京首都圏エリアで営業している東京本部では、提供しているサービス内容をブログやメールマガジンなどでPRする情報サイト「#こちら台東企画研究所」（https://taitoplanlabo.amebaownd.com/）を運営している。ショールーム機能も有するプリントショップ「情報工房DOC」も展開するなど、顧客との接点を増やす取り組みに注力している。

第一印刷所は、商業印刷、ビジネスフォーム、販促支援といった分野の事業を展開している企業。印刷に限らず、WEB制作や映像撮影・編集、販促支援、デザインなどをワンストップで提供している。

多様な営業品目をそろえる中で、台東区根岸の東京本部発の取り組みとして、同社の事業内容を広く伝える企画情報サイト「#こちら台東企画研究所」を運営している。

皆川和仁部長

メールマガジンやブログ、店舗などで販促を行う

東京本部営業部の皆川和仁部長は「当社の取り組みを知ってもらい、潜在顧客の方々とコミュニケーションを取るため、2016年10月に発足した」と狙いを話す。コンテンツとしてブログやメールマガジンをそろえ、商材の紹介、イベントリポート、世間で話題になっている商品・スポットに対する分析など、商品開発のアイデアの種となる情報を配信。営業開発課のマーケティング担当、菊地淳弥氏は「市場のトレンドに合わせた情報を提供して商機の創出を目指している。当社が扱っているノベルティーなども紹介しており、徐々に見積もり依頼は増加してきている」と反響を話す。

特に引き合いが多いのは、同社が設備するレーザー加工機を駆使した製品だという。グリーティングカードやしおりといったアプリケーションに微細な加工を施す事例を紹介しており、手応えを感じた（菊地氏）としている。

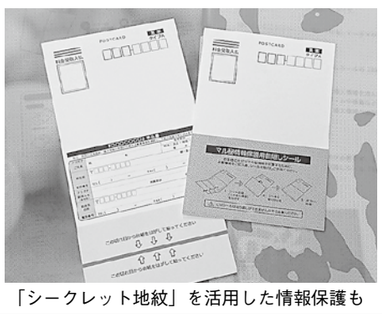
菊地淳弥氏

豊富な商材を取りそろえる同社は、粘着関連の製品もラインアップ。実用新案を取得した「Shield（シールド）しゃる」はハガキと目隠しシールが一体になっており、個人情報収集時の漏えい対策に効果を発揮する。特徴的なのは、記入された文書の透けを防止する「シークレット地紋」を目隠しシールの柄に採用している点。

皆川部長は「従来の透け防止の地紋は模様が多く密度も高かったため、地紋の上に文字や図柄を載せるのには向いていなかった。シークレット地紋は特殊なデザインを採用しており、模様が薄くても目隠しシールで覆った文字の可読性を下げるとともに、シールに印刷された文字の視認性は大幅に向上させている。守秘性を高めながらも、デザイン性を犠牲にしていない」と独自性を強調する。シークレット地紋の柄を応用したクリアファイル「カクセルファイル」も展開しており、個人情報の保護が徹底されている医療機関などで採用実績を持つ。

顧客の要望に応じて、自社内のデザインや企画力、印刷・加工技術を組み合わせた提案を行う同社は、自社製品をディスプレーするプリントショップ「情報工房DOC」も展開している。新潟をはじめ、東京本部にも開設しており、顧客にワン・ツー・ワンで対応し、製品開発を支援する。「当社が取り組めていない領域はまだまだ多い。特に東京は国際的なイベントが控えており、ビジネスチャンスは拡大していると感じている」（皆川部長）としており、今後も#こちら台東企画研究所と共に顧客への情報発信を継続する。

菊地氏は「今後もブログやメールマガジンの内容を充実させて、営業チャンスにつなげていく」と話し、印刷物活用の裾野の拡大を目指す。


「シークレット地紋」を活用した情報保護も

## FENG PENG LABEL PRINT

## デジタル加飾のマスキングテープ展開
### 「JETvarnish 3DW」をアジア初導入

台湾の印刷会社FENG PENG LABEL PRINTは、独自の加飾技術を駆使したマスキングテープのブランド「UR TAPE」を展開している。箔やニスの厚盛りによって高意匠性を実現する同社は昨年末、仏MGIのデジタル加飾を可能にするロール・ツー・ロールモデルの後加工機「JETvarnish 3DW」をアジア地域で初めて導入。日本市場への進出も視野に入れており、6月に開催された文具関係の展示会「ISOT」にも2016年からの継続出展を果たした。ブースでは、同社独自のマスキングテープが来場者の関心を集めた。

台湾台中市のFENG PENG LABEL PRINTは、1982年創業で従業員数60人の印刷会社。創業当初は靴箱に貼付するラベル印刷を主な業務としていたが、事業拡大を図り、健康食品やワイン、医薬品ラベルなども手がけるようになった。

さらなる高付加価値製品を求め、マスキングテープの製造に4年ほど前から着手。現在では、同社の売り上げの7割弱を同製品が占めている。

台北のブックストア内で自社ブランド「URTAPE」の販売スペースを構え、和紙に似た風合いの日本製の紙を生かしたマスキングテープなどを扱っており、台湾で人気のデザイナーとコラボレーションしたデザインで展開。年間10種ほどの新モデルを継続的にリリースし、高い意匠性で支持を集めている。

また、消費者がオリジナルデザインでマスキングテープを発注できるオンラインサイトなども運営し、香港などにも商品を供給。

伊敏 呉氏

箔とニス加工を長尺・バリアブルで対応できる

OEM製造も手がけ、マスキングテープ事業は年20%もの成長率を誇っているという。

しかし、近年は競合他社との競争が過熱。コストや意匠性などで各社が優位性を打ち出している中、UR TAPEブランドの責任者であるゼネラルマネージャー、伊敏呉（イーミン・ウー）氏は「成長を鈍化させないための新たな施策が必要だった。そこで、無版で箔やニスの長尺加工が可能となる『JETvarnish 3DW』を昨年末に導入した」と話す。

同機はアジア圏における初号機となり、他社との差別化につながるユニークなデジタル加飾を実現。同社が出展したISOTのブースでは、フィルムの透明素材に箔で画像を描いたテープのほか、金箔で文字を表現した5㍍におよぶ巻物などが披露された。

呉氏は「OEMのお客さまからは、加飾に関する要望も以前から多くいただいていた。従来のコンベンショナル機では、ロットなどの制約をはじめ、版の都合で25㍍長までしか箔加工ができなかった。JETvarnish 3DWによる小ロットから対応可能な長尺・バリアブル加飾は、競合他社との明確な差別化を実現できる」と導入の効果を強調。同機は専用基材を使用せず、コロナ処理によって紙やフィルム系基材に加工を施せるといった点も特徴で、多様な基材への加飾でさらなる付加価値の創出に挑む。

JETvarnish 3DWを生かした仕事の獲得を目指し出展したISOTでは、手作業やコンベンショナル機では対応が難しい長さ・ロットに対して有用と反響を得た。長尺の箔・ニス処理が可能な点が多数の来場者から関心を集め、マスキングテープ以外の大判印刷物に関しても、活用が見込めると期待を寄せる。

今後は日本市場に対して、UR TAPEブランドの進出をはじめ、OEM事業の展開も狙っている同社。「日本では、高品質な印刷・加工精度が求められることは理解している。半年ほど運用することでJETvarnish 3DWの使い方も理解できたので『クオリティー』『コスト』『ニューテクノロジー』の3点で、優位性のある提案が可能だ」（呉氏）と訴求する。

日本国内からの問い合わせ先は、村田金箔グループ（☎06・6623・0235）まで。

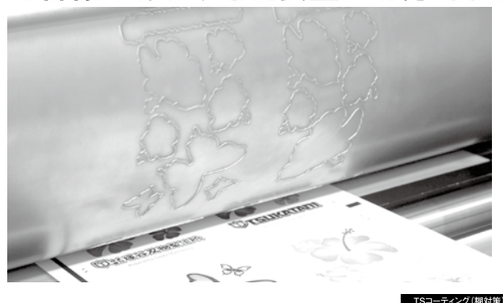
金箔で文字を表現した5㍍にもおよぶ巻物も

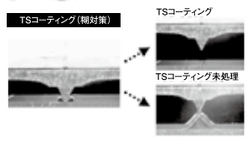
シール、ラベル印刷の事ならタニダにお任せ下さい。
シールの外注先でお困りの事はありませんか？・・・タニダは機械設備と実績でお応えします。
●品質管理：CCDカメラ検品機等を駆使し、厳しい管理体制で安心出来る商品をお届け致します。
●納期対応：多種多様豊富な機械台数で、無理な納期にもお応え致します。
●価　格：日本国内から中国まで、直接管理にて低価格をご提案しています。
ブクブクシール（中国製）

（本社）
シール、ラベル
あらゆるニーズにお応えします。
ホームページアドレス
http://www.tanida-kk.com
the 時代を貼りつくす。
by Tanida タニダ株式会社
取扱品目：一般シール類、ファンシーキャラクターシール類、シルク・特殊加工類、ノベルティー関連、その他
本　社／〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-208（松江湖南テクノパーク）
TEL(0852)27-1333(代表)　FAX(0852)27-6514
製本部／TEL(0852)27-5937　FAX(0852)27-5937
東京営業所／〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町3-22小林ビル2F
TEL(03)6852-8973　FAX(03)6852-8983
大阪出張所／〒547-0034 大阪市平野区背戸口4-3-5丸徳ビル3F
TEL(06)6797-7756　FAX(06)6797-7616
E-mailアドレス／seal@tanida-kk.com

実績多数、海外市場もカバー
MARKET RESEARCH
国内外のラベル・パッケージ市場の調査・分析
【お申し込み・お問い合わせ】　ラベル新聞社　T: 03-3866-6577　F: 03-3866-0105　M: hanbai@labelshimbun.com　www.labelshimbun.com

株式会社スミタ
大　阪（本社）
〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷町2-33
TEL.06-6768-2891(代)FAX.06-6768-4899
東　京
〒332-0011 埼玉県川口市元郷4-25-7
TEL.048-456-8572(代)FAX.048-223-2995
名古屋
〒462-0835 名古屋市北区杉村1-12-7
TEL.052-917-5673(代)FAX.052-917-5675
松　山
〒790-0003 愛媛県松山市三番町7-13-13-103
TEL.089-915-0097(代)FAX.089-915-0129
シールラベル印刷のお役に立ちます。
常に最新かつ独自のデジタルノウハウと積み重ねたキャリアが支える確かな技術力であらゆるご要望にお応え致します。
● 長年ご愛用頂いている円筒版
● 豊富に取り揃えている版材バリエーション
● 印刷立ち上げの効率をアップさせる PS 処理
● 設備、材料等のご紹介・販売、テクニカルサポート
● 多彩なドットフォーメーションと網点バリエーション
● CAD カッティングマシーンを使って極小ロットやサンプルの制作およびエンドレス版の正確な入れ子仕上げのカッティングが可能です
● デザイン制作からでもご対応可能
● 従来のアナログ製版から最新のデジタルリニア製版まで多彩にフォローします
詳しくはお気軽にお問い合わせください

FLEXIBLE PINNACLE DIE®　フレキシブル ピナクルダイ®
TSUKATANIのピナクルダイは、信頼される確かな品質で抜群の切れ味を実現!
お客様のあらゆるご要望にお応えします。

周辺機器
□ マグネットシリンダー
TSUKATANIのマグネットシリンダーは、2200ガウスの強力な磁力でピナクルダイを確実に固定。信頼の品質で安定した抜き加工を可能にします。
□ レンタルシリンダー
50Z～100Zを用意しております。(三起機械、源祐、太陽機械、マーカンディ、250幅に対応)
□ 簡易式抜き機(RDC-FB)
卓上でテスト加工が簡単に行なえます。
用途に合わせ、ピナクルダイ専用タイプ、ピナクルダイとシール型が使用可能な兼用タイプをご用意しております。
○ 抜き有効範囲:(本体ｻｲｽﾞ mm)　A3タイプ(710x725x250　75kg)
A4タイプ(470x420x190　20kg)
A5タイプ(380x355x190　14kg)
A6タイプ(320x310x190　9kg)

ピナクルダイ特殊仕様
□TSコーティング
超薄膜非粘着コーティングです。刃物の切れ味を損なうことなく、ラベル加工において重要な糊対策に威力を発揮します。


□ 高耐久仕様
■ ハードタイプ(AH)　硬度:HV940 (HRC68)　刃型表面が硬く、ハーフカットに効果を発揮。
■ DLCコーティング　硬度:HV1200　ハードタイプにDLCをプラス。更に耐久性がUPします。
■ レーザー硬化タイプ　硬度:HV697 (HRC60)　刃先から深くまで硬化。フルカットに最適です。
株式会社 塚谷双物製作所
http://www.tsukatani-hamono.co.jp
本社営業部　〒581-0814　大阪府八尾市楠根町5-30　TEL：072-996-8770　FAX：072-996-8777
E-Mail：anvil@tsukatani-hamono.co.jp
東京営業部　〒143-0024　東京都大田区中央7-7-3　TEL：03-3754-8131　FAX：03-3754-8134
E-Mail：tokyo@tsukatani-hamono.co.jp